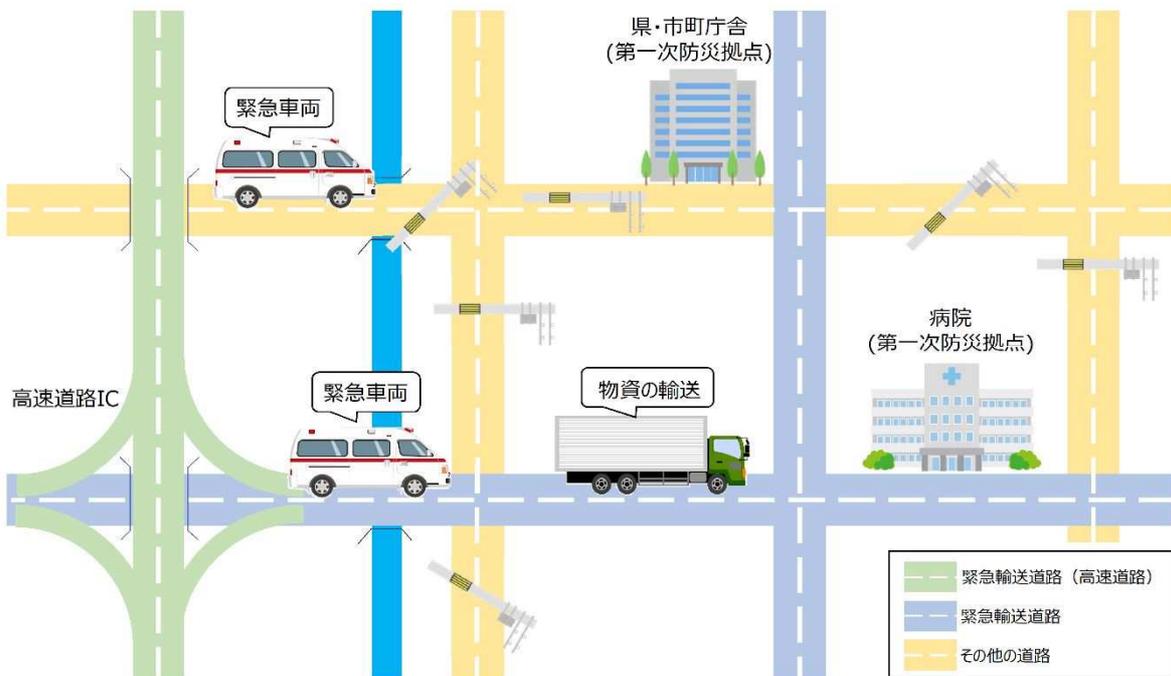


第4章 無電柱化の推進に関する基本的な考え方

1. 無電柱化の基本方針

無電柱化によりもたらされる『防災』、『安全・円滑な交通確保』、『景観形成・観光振興』の整備効果を踏まえ、群馬県における無電柱化の推進に向けた基本方針は以下のとおりとします。

基本方針 1 【防災】	■災害時にも機能する強靱な道路ネットワークの構築による災害時の救助・復旧活動の円滑化
	<p>災害時における救命救助や被災地への支援物資輸送、経済活動の継続性を確保するために必要な道路である、災害時にも機能する強靱な道路ネットワーク路線の無電柱化を推進します。</p> <p>なお、都市計画道路等の道路整備については、関連事業と調整を図りながら効率的に無電柱化を推進します。</p>



【電柱倒壊による防災ネットワークの寸断イメージ】

基本方針2
【安全・円滑
な交通確保】

■ 歩行者や車椅子、自転車の安全円滑な通行空間の確保

バリアフリー重点整備地区および「都市計画区域マスタープラン」において中枢拠点および都市拠点等に位置づけられた地区の歩行者・車椅子・自転車の安全な通行確保が必要な路線の無電柱化を推進します。

特に、バリアフリー重点整備地区内の特定道路について優先的に無電柱化を進め、歩行者・車椅子の安全・円滑な交通確保を図ります。

その他、主要駅周辺や通学路、自転車ネットワーク路線など、安全な通行確保が求められる箇所についても、地域の要望や合意形成の状況等を勘案して無電柱化を検討し、合わせて道路構造や交通状況に応じて歩行者と自転車の通行空間の分離を行います。

なお、バリアフリー整備事業や道路の拡幅事業が予定されている路線については、同時整備による効率的な無電柱化を実施します。



整備前



整備後

【無電柱化による安全で快適な歩行空間の形成イメージ】

基本方針3
【景観形成
・観光振興】

■ 観光資源や歴史ある文化遺産と一体となった魅力ある景観づくり

観光資源や歴史・文化遺産と一体となった良好な景観の形成、眺望の改善を目指し、主要な観光地の周辺路線の無電柱化を推進します。その中でも重要な位置づけを持つ「世界文化遺産」「重要伝統的建造物群保存地区」「歴史的風致維持向上計画における重点区域」の周辺道路については、優先的に無電柱化を進めます。

その他、観光振興のために必要な道路や魅力ある景観・風景の形成に必要な路線についても整備を検討します。

なお、市街地開発事業等と合わせて景観形成が望まれる地域等では、開発事業と調整を図りながら無電柱化を推進します。



整備前



整備後

【無電柱化による魅力ある景観づくりイメージ】

< 甘楽町小幡城下町地区の周辺道路(県道197号 下高尾小幡線)整備イメージ >

2. 無電柱化の整備方針

今後10年における無電柱化の整備は、以下の方針で推進します。なお、低コスト手法、新技術の状況等を踏まえて、整備方針は適宜見直していくものとします。

整備方針1 道路管理者間および官民連携による無電柱化整備の推進

無電柱化の連続性確保や面的な整備を推進するため、道路管理者間での事業調整や情報共有を行います。

無電柱化の整備手法の検討にあたっては、電線管理者と協議を行い、無電柱化法に明記されたそれぞれの責務に基づき、適切な役割分担および適切な費用負担により、効果的に無電柱化を進めます。

また、歩道が狭い又は歩道が無い道路においては、地域の協力を得て、公共用地や民地等の道路外の敷地を活用した電線共同溝整備を検討するなど、官民連携による整備の推進を図っていきます。

整備方針2 電柱移設も含めた、様々な整備手法の組み合わせによる柔軟な無電柱化整備

これまで電線共同溝方式を中心とした地中化による無電柱化を進めてきましたが、各現場状況に合わせて、様々な選択肢の中から現場に適した手法を選択します。

電柱移設が効果的な場合には、電柱移設による対応を検討します。

(p.33 無電柱化の施策目的に応じた整備手法選定の考え方参照)

整備方針3 無電柱化の必要性に合わせた防災面を優先とする重点的な整備の推進

昨今の災害の頻発化・激甚化を踏まえた上で、基本方針に基づく効果的な無電柱化を推進するため、防災面で高い整備効果が期待できる路線・区間の無電柱化を優先的に進めます。

➤ 今後10年において無電柱化を推進する重点整備路線（第5章参照）

【防災】 災害時にも機能する強靱な道路ネットワークを構築する路線

【安全】 重点整備地区内のバリアフリー特定道路

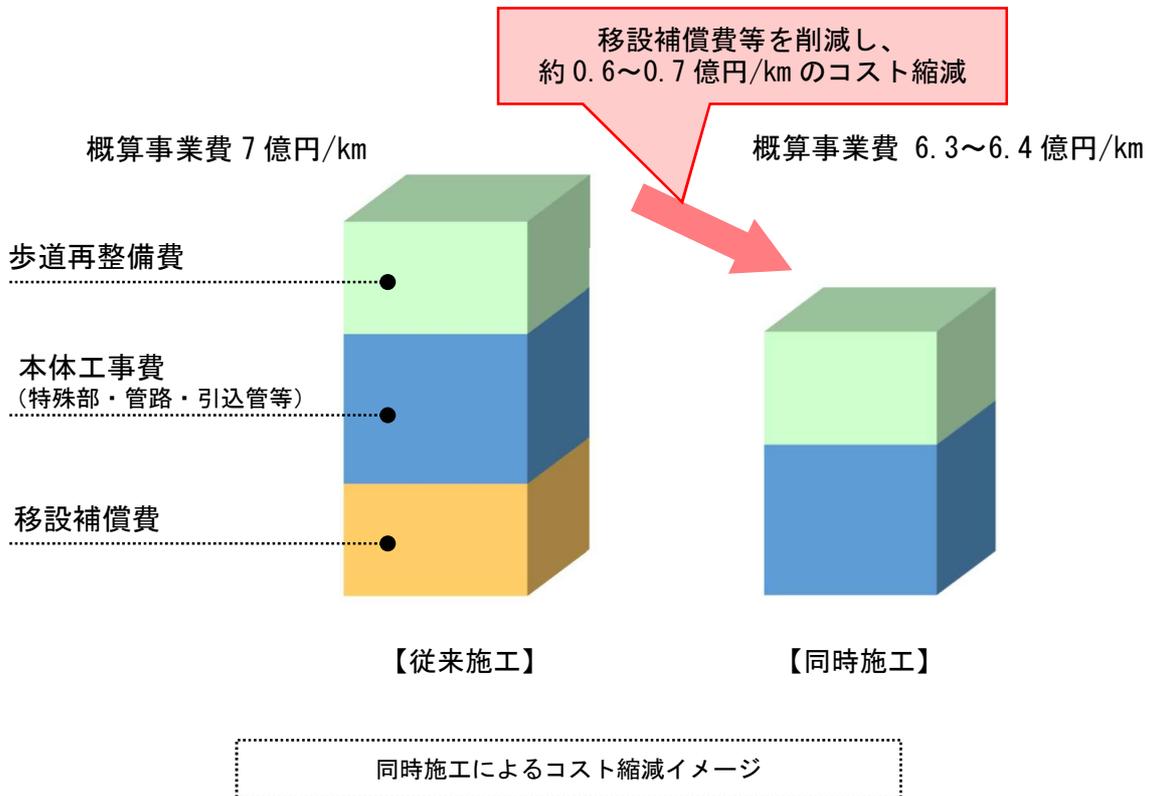
【景観】 重要な位置づけを持つ観光地周辺の道路

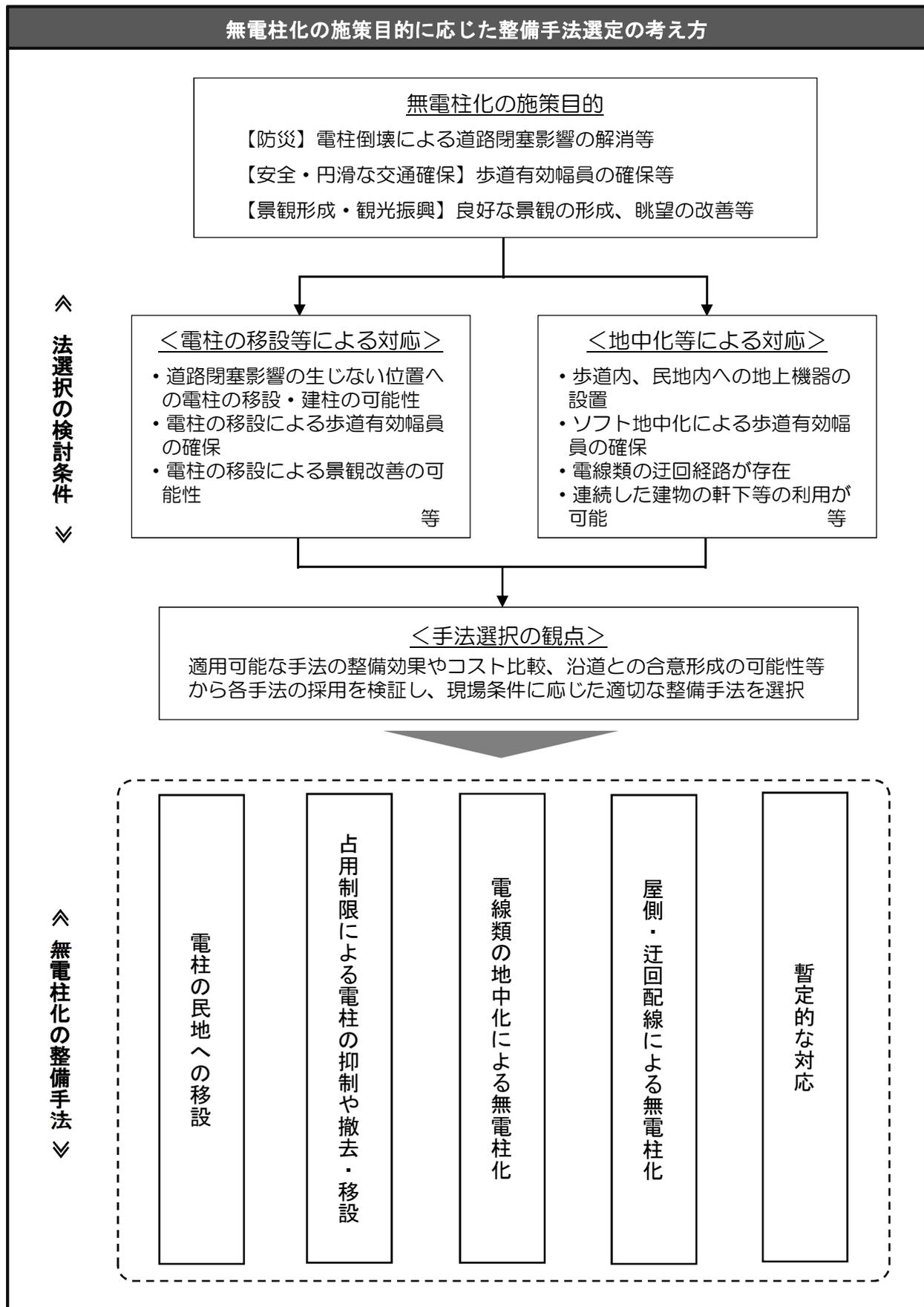
整備方針4 同時整備等によるコスト縮減や工期短縮を図る事業の効率化

道路新設整備や開発事業等が実施される際には、事業と合わせた同時施工によるコスト縮減・工期短縮を図ります。群馬県におけるこれまでの整備実績から、電線共同溝方式による無電柱化においては、同時施工によりおよそ約0.6～0.7億円/kmのコスト縮減が期待されます。

また、新技術や低コスト手法等の導入可能性を積極的に検討するとともに、管路・マンホール等の既存施設等が活用可能（既存ストック方式）な場合には積極的に活用して、コスト縮減・工期短縮に努めます。

さらに、手続きの簡素化や様々な発注方式の取入れによる事業の効率化についても検討していきます。





法選択の検討条件

無電柱化の整備手法